

# 祝・銀メダル獲得！

## 長谷川帝勝選手 凱旋特別対談

ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックのスノーボード・スロープスタイルで見事銀メダルを獲得し、本市初となる「市民栄誉賞」を受賞した長谷川帝勝選手。大盛況となった凱旋セレモニーに続き、久保田市長との特別対談が実現しました。

### ■ プレッシャーを力に 臨機応変に戦ったオリンピック

久保田市長（以下、市長） 改めて、銀メダル獲得おめでとうございます。アジア総合体育文化センターでのパブリックビューイングは、深夜や早朝にもかかわらず大勢の市民が駆けつけました。予選から本場にハラハラしながら応援していましたよ。

長谷川選手（以下、長谷川） ありがと



うございます。最初のビッグエアがうまくいかなかったので、「スロープスタイルも見なくなるのはやめてほしいな」と思っていました（笑）。僕にとってはスロープスタイルが本番だと思っていたので。

市長 圧倒的な練習量があるからこそ、本番でも落ち着いて対処できるんですよね。その場で技の構成（ルーティン）を変えたりもするのですか？

長谷川 そうですね。予選の傾向を見て「この構成では点数が出ないな」と思ったら、他の選手の点数が出ている要素を取り入れて、その場でルーティンを変えることもあります。今回の予選の2本目も、急遽確率の高い技に変更して決勝に進みました。

### ■ 「ゼロコケ」の意識と、 ブレない覚悟

市長 長谷川選手は、怪我をしないために「ゼロコケ（絶対に転ばない）」を合言葉にしていると聞きました。より

上を目指すための挑戦と、転ばないこととの両立は非常に難しいではありませんか？

長谷川 「こけて当たり前」と思うか、「どんな状況でもこけないように頑張る」か、そのマインドの違いは一瞬の駆け引きで大きく影響します。ゼロコケを意識していたからこそ、怪我を回避できた場面はたくさんありました。

市長 岩倉南小学校の卒業文集には、すでに「金メダル」と書いてあったそうですね。長いシーズンの中では上手くないかない時もあると思いますが、どうやって克服しているのですか？

長谷川 ネガティブになる時もポジティブな時もありますが、両方の自分と向き合うようにしています。どんな状況でも「絶対にメダルを取る」と宣言した時から、ブレない軸と覚悟を持ってやってきました。大きいことを言っただけだった時に批判される前提で覚悟を持っていけば、いざという時も心が揺さぶられません。



長谷川帝勝さん  
HASEGAWA TAIGA

2005年生まれ  
岩倉南小学校、岩倉中学校卒業  
2017年に小学6年生にして、ノースポンサー選手が参加できる大会のオープンクラスで優勝。  
2023年の世界選手権ビッグエアで日本人初の金メダルを獲得。  
2024-2025シーズンでは、FISポイントリストラランキングでビッグエア種目年間王者に輝く。

## 凱旋セレモニー & 市民栄誉表彰式

3月24日(火)、岩倉市初の市民栄誉賞を贈呈しました。長谷川選手は「応援が力になった。銀メダルで恩返しできて嬉しい」と感謝を語りました。





### 飛躍のターニングポイント

市長 今の長谷川選手があるのは、どんな出来事がターニングポイントになったのでしょうか？

長谷川 高校1年生の時ですね。当時、この種目のトップを走っていた角野友基選手からかけられた言葉がきっかけです。

小学生の頃から国内では結果が出ていたのですが、世界に出たからの僕は、少し守りに入っていた部分がありました。角野選手はそれを見てわかったのだでしょうね。「今のまま大会をやっていたら、あつという間に終わりが来ちゃうよ。上手くて努力もしているんだから、もっと自信を持ってやれよ」と言われたんです。

そこから「攻める時は攻めないといけない」と意識がガラッと変わり、大会での勝ち方を知ることができて、結

果が始めました。間違いない、あれが僕のターニングポイントだったと思います。

### ホットする岩倉の風景と、こどもたちへのメッセージ

市長 地元企業の石塚硝子さんがスポンサーとして応援してくださっているのも心強いですね。

長谷川 はい。地元の皆さんに応援していただけるのは本当に嬉しいですし、結果を出さなきゃというプレッシャーもありましたが、恩返しができる良かったです。

市長 海外遠征が長く続く中で、日本、そして岩倉市に帰ってきた時に「帰ってきたな」とホットする風景はありますか？

長谷川 やっぱ、岩倉駅に着いた時ですね。駅のロータリーがあって、周りにコンビニやいろいろなお店があるあの景色を見ると、「ああ、帰ってきたな」と実感します。

市長 今回のオリンピックをきっかけに、当時の同級生や恩師とも再会されたそうですね。



長谷川 はい。僕自身、小・中学校時代は良い先生や仲間恵まれて、ほのぼのとした学校生活を送ることができました。今回みんなと再会して食事に行けたことも、本当に良い思い出になりました。

市長 今日から市内の小・中学校は春休みです。そんな岩倉のこどもたちに向けて、何かメッセージをお願いできますか？

長谷川 一番は「ほのぼの生きてほしい」ということですね。平和なこの街で、自由に好きなことをやってほしいです。中学生になると色々な悩みを抱える時期だと思いますが、挑戦して失敗したとしても、何十年後には同窓会での笑い話や、自分の大きな財産になるはずですよ。

### 次なる目標は「4年後の2冠」

市長 最後に、来シーズンや今後の目標を教えてください。

長谷川 来シーズンの目標は「全戦全勝」です。そして4年後のオリンピックでは、ビッグエアとスロープスタイルの2種目とも金メダルを狙います！

市長 素晴らしいですね！ 4年後はさらに盛大にお祝いできるよう、岩倉市民一同、これからも全力で応援しています。本日は本当にありがとうございました。



▲次は一つ上のメダルを目指して

## 教えて！ 長谷川選手

セレモニーでの質問の一部を紹介します。

Q. 1日の練習量は？

A. スキー場にいる時は、朝9時のオープンから夕方4時まで、約8時間ずつと滑り続けていました。自宅にいる時も、午前と午後で3時間ずつ、計6時間のトレーニングを行っていました。

Q. 目標を達成した時の「自分へのご褒美」や「勝負飯」はありますか？

A. 昔はゲン担ぎをしていましたが、最近はありません（出国前はたまたまカツ丼とごんでした）。特別なご褒美というものはありませんが、大会のプレッシャーから解放された今、地元の同級生や恩師など、自分の好きな人たちと会ってゆっくり過ごす時間が、一番のご褒美だと感じています。

Q. オリンピック現地での楽しかったエピソードを教えてください。

A. オリンピックには、各国の選手に配られる自国のピンバッジを交換し合う文化があります。他国の選手から「日本のバッジをちょうだい」と声をかけられ、コミュニケーションを取りながら仲良くなれたのがとても楽しかったです。また、長い大会期間中もスポンサーの施設で過ごしたり、色々な国の人たちと関わったりできたことが良い思い出になりました。